

ボン条約（移動性の野生動物種の保護に関する条約）

～ 持続可能な開発にとっての移動性動物種の価値～

生物多様性：持続可能な開発のための生存の基礎

地球上の生命の多様さ 生物多様性 は人類の幸福にとってかけがえのないものです。それは持続可能な開発のための生存の基礎なのです。生物多様性は人類の進歩を多くの面で、直接的にも間接的にも支えるために、ものやサービスを提供しています。それは生態系の機能と構造の生物学的なベースであり、例えば水の浄化や土壌の肥沃化、気候の安定性に貢献しているのです。

生物多様性を支えている生物資源は、食料や薬、人間が毎日の生活のベースとして、または経済の発展のために依存する、ものを提供します。また、生物多様性は世界中の多くの文化的価値の中心でもあります。

生物多様性には様々な構成要素 - 遺伝子、種、ハビタット - が存在していて、これらは、地球上の貴重な生態系をつくりあげています。そして、地球上に存在する約 150 万の動物種のうち、8000 種から 10,000 種が、一つの環境からほかの環境へと定期的に移動する性格のライフサイクルをもつ種だと推定されています。

移動性生物種の重要性

動物の移動は、最も荘厳な自然プロセスのうちの一つです。しばしばその規模や動物の数に、目を見張るような光景が繰り広げられます。多くの動物は、繁殖や子育てのための適した場所を探し、また違う時期には餌を見つけるためのちょうどよい場所を探すために移動します。極めて長距離を旅するケースもあります。例えば、北半球のセミイルイカとキョクアジアシは夏と冬に過ごす地域の間を何千キロも移動します。いくつかのアホウドリの種類は、2年間も陸に戻ることなく海の上を飛び続けることで有名です。

移動性の動物種はただその外見が美しいだけではありません。彼らは生態系の機能と構造において、また人間の経済活動や文化に対しても重要な役割を果たしているのです。例えば移動性の鳥やコウモリなどのほ乳類は、花の授粉を助けたり、種子の散布を助けたりし、また、自然と害虫の量をコントロールすることで、私たちの食料供給の維持に重要な

役割を果たしているのです。彼らの価値あるサービスなしには、地球上の森林や農業システムの生産性は下がってしまうでしょう。

移動性の種は、数え切れないほど多くの経済活動の中で利用され、今もされ続けています。商業用やレクリエーションとしての狩猟や漁、また、カメの卵の持続的な収集やキャビアの生産など、直接的な利用は、地域や、国、世界の経済に貢献しています。また、バードウォッチングや、ホエールウォッチングを含むエコツーリズムのような間接的な利用も高い利益を上げています。このように、これらの産業が頼っている移動性の種は大変重要で、持続的でない利用は、地域社会、ひいては産業全体までも経済的な崩壊の危機にさらしてしまいます。

移動性の種は、多くの文化においても有力な役割を担っています。例えば、ロシアや中国の一部で崇敬されていたソデグロツルを考えてみましょう。この鳥は古代エジプトの絵画にも描かれていて、かつては広く分布していたことが分かります。今日、このすばらしい鳥はかつての生息域の多くで、絶滅の危機に立たされています。興味深いことに、ある一つの動物が、その移動の過程で通る異なる地域の文化において、違った意味を持つことがあります。たとえば、コウノトリはアフリカでは神聖な動物だと考えられていますが、ヨーロッパの一部ではこのすばらしい鳥は、赤ちゃんが産まれる前兆だと考えられています。

移動性生物種：パスポートを持たない旅行者

移動性のほ乳類、鳥類、は虫類、魚類や昆虫類は、基本的に地球規模の旅をします。彼らの生存は異なる生息地を探すという生物的な要求によって成り立っている一方で、移動することは、とりわけ彼らを様々な危機にさらすことにもなります。平均的に見て、彼らは移動性でない動物よりも危険にさらされるおそれが高いのです。そして政治的な境界線が、問題をさらに複雑にします。通過するそれぞれの国によって、環境政策の実施基準は異なるからです。したがってこのような、保護のシンボルとなる種を守るには、これらの国境を越えた協力が必要不可欠です。

刻々と変化する世界で、移動性の種が依存する地域や、時には動物そのものに対する人間の圧力が大きな問題になっています。略奪的な狩猟や漁、そして漁業生産における偶発的な捕獲は、全て、多くの犠牲を出します。ダム、フェンス、電線、風力発電などの障壁は、移動のパターンを混乱させ、多くのケースで大量の死を招きます。結果として、かつ

ては普通に存在していた移動性の種の多くが、極めてまれな存在になり、中には絶滅の危機に陥っているものもあります。

CMS：移動性動物種のための国際的な行動

CMSは、80の締約国と、その他の国、パートナー機関とを通して、世界で最も危機にさらされている移動種の保護と、それらの持続的な利用に向けての規則を調整するために活動しています。目的は、ボン条約の二つの付属書にリストアップされている数百種にとって、好ましい環境を確保することであり、これは持続可能な利用のための必須条件でもあるのです。また、他の政府間の条約（生物多様性条約、ラムサール湿地条約、絶滅種の国際貿易に関する条約）や、国際機関（BirdLife International、IUCN、Wetland International）とも連動して活動しています。CMSの国連環境計画とのつながりによって個々の活動プログラムが確実に実施されるようになっていきます。

美しさを越えて：持続的な利用のためのCMSの基本的な実施ツール

CMSの3つの実施ツールは、持続可能な発展のための基本的な要素（経済の発展、社会の発展、環境保護）を統合しています。

危機にさらされている移動性動物のための一致した行動が、CMSの一つの実施ツールです。これは、野生動物の個体数を維持、増加させ、また絶滅の危機にさらされている移動性動物を厳しく保護することを目的としています。重要な要素は以下の4つです。

- ・ 国内の保護基準を厳しくする
- ・ 貴重な生息地の保護と回復
- ・ 移動の障害物の撤去や緩和
- ・ そのほかの危険要素の管理

CMSの2つ目の実施ツールは、国際的な協定を締結するための活動です。CMSの協定は、動物が好ましく保護された環境に戻れるように、移動地域を通じて専門的な法的枠組みと行動計画を示します。

1990年より、CMSの元で、数多くの国際的な取り決めが行われてきました。移動性の鳥類（水鳥、海鳥）、アザラシやアシカ、クジラ目（クジラや、イルカ、ネズミイルカなど）

ウミガメなどが対象です。その他の動物については現在、様々な策定段階にあります。

3つめの実施ツールを通じて、CMSは移動性動物種の重要な共同保護研究プロジェクトを推進します。これらのプロジェクトは保護活動を促進し、知識のギャップを埋め、保護活動に対してよりよい科学的な基礎を提供します。

貧困撲滅と持続的な経済社会への貢献：移動性動物種の保護と持続的利用

貧困撲滅に向けての努力は、移動性動物種の減少を逆転させる努力と共に行うことができ、またそうするべきです。貧困は、生息地の消失や過度な利用を通じて、直接的にも間接的にも知らぬ間に移動性動物種に影響を与えます。貧困地域の人々は、その日を生き延びるために、持続的でない、また時には違法な、狩猟や釣り、売買に頼っているのです。

例えば、サイガの角の密猟と違法取引は、野放し状態の狩猟と共に、近年の個体数減少を引き起こしてきました。かつては数多く生息していたサイガを保護し、持続的に利用するためには、減少の根本的な原因であった、経済的苦難、疲弊、不十分な土地利用計画に対する検討がなされなければいけません。現状を打破し、中央アジアのステップにたくさんのサイガを取り戻すために、CMSは分布国の間で取り決めを策定しています。

また、過去20年にわたるのオサガメの劇的な減少（メスの営巣個体数は95%もの減少）は、他の生計手段を持たない地域コミュニティによる過度な卵の収集が、その理由の一つとして考えられます。CMSは世界中の国々と、オサガメの過度な利用の当然の帰結を回避するために、管理システムの整備作業を行っています。

CMSは経済発展と貧困撲滅の地域的なイニシアティブを実行します。CMSの干渉は、地域の天然資源基盤と密接に結びついているその土地の人々や地域コミュニティに、長期的な利益をもたらすことを意図しています。草の根の会議として、CMSは野生動物への短期的な圧力を削減している間、代替りの生計手段を提供するプログラムを推進します。

アフリカ大陸を対象とした多くの活動を通じて、CMSはまた、発展途上国と先進国の間の協力関係を築く手助けもしています。これらの活動は、サヘル・サハラ地域のガゼルやアンテロープの生存可能個体数の回復や、大西洋とインド洋の海岸地域でのウミガメの保護、移動性水鳥とその生息地の持続的な利用などを含んでいます。

CMSとその手段は、共同管理手段を整備することで、持続的利用のゴール達成のために貢献しています。例えば、多くのCMSの手段は、動物の移動範囲にわたってそれらの実施の一貫性を確実なものにするために、国家の狩猟に関する法律との調和を模索しています。

持続的利用の実施を行う国を支援するために、ガイドラインが作成されることもあります。例えば、アフリカ・ユーラシア渡り性水鳥の保全に関する協定（AEWA）は、移動性水鳥の持続的な利用についてのガイドラインや湿地におけるエコツーリズムのガイドラインを出版しました。ヨーロッパにおけるコウモリの保全に関する協定（EUROBATS）は、コウモリによって提供されている貴重な生態系のサービスを衰えさせないための、コウモリに優しい森林づくりを実践しています。さらにもうひとつのCMS協定は、黒海と地中海のクジラ目に関して、クジラにも利益を与え、また観光産業の活力も維持するのに協力する、ホエールウォッチングの実施を促進しています。

移動性動物種に影響を及ぼす消費と生産の非持続的なパターンの変化:混獲と移動性動物種

世界的な海洋漁場の多くが非持続的に利用されていることは広く知られています。海洋生態系の直面している主要な問題のひとつは混獲です。それによって漁の目的とされていない非常に多くの移動性動物種を含む種が、偶然に捕獲されそして廃棄されています。刺し網、トロール網、延縄などの様々なタイプの漁の道具は、小型捕鯨類、ウミガメ、アホウドリやウミツバメなどの海鳥の個体数を脅かしています。これらの動物は全て移動性です。いくつかのCMS協定は、混獲の回避や削減を対象とした活動を通じて、特にこの問題の検討を目指しています。

自然資源基盤の保護が移動性動物種を支え、社会経済発展を強化させる：気候変動と移動性動物種

水資源、海洋、農業、砂漠化、山、観光、森林、鉱業（これらは全て、WSSD（持続可能な開発に関する世界首脳会議）がテーマとして検討する分野です。）と関連して行われる環境と開発に関する決定は、直接的にも間接的にも移動性動物に影響を与えるかもしれません。気候変動は、人類の健康に関してのみでなく、私たちの生活に非常に多くの面で貢献している移動性動物種にとっても、新たに出現している問題です。

気候変動は、以下の4つの主要な道筋を通じて、移動性動物種に対して影響を与えると思われる。

- ・繁殖地、中継地、越冬地のための場所の物理的位置、広さ、状態を変える。

- ・ 大気循環、海洋循環を変化させ、物理的分布に影響を与える。
- ・ 重要なライフステージのタイミングを変化させる。
- ・ 繁殖能力（産卵数）のような生理的な反応を変化させる。

急速な気候の変化は、種が進化する遺伝的能力よりも大きいことを多くの証拠が示唆しています。それはつまり、多くの移動性動物種にとって、気候変動は彼らが適応できるよりも大きな程度で、重要な環境パラメータの変化を引き起こしていることを意味します。

移動性動物種は、繁殖、中継、越冬のためのそれぞれの土地で、必要な時に必要な資源を確実に利用できるようにする管理規定によって利益を得るでしょう。これらの管理規定には、現実的な生物種利用の施策を補足することで、管理施策の決定に、予備的なアプローチを確立する必要があります。このような規定によって、気候変動に適応できる移動性動物種の、生態系と世界経済における重要な役割が維持され得るのです。

結び

ますます乏しくなる財源と専門技術を最大限に生かすため、生息地の分布する国は、移動性動物種のような共通の生物資源の持続的利用と保護のために協力しあう必要があります。このような種の生息地全体を通しての協力は、保護のための基金がより効果的に使われ、生息地の分布する国から国へと一貫した施策の実施を確実にものとします。CMSは国際的な法的枠組みを提供しており、それを通じてすでに約 100 ヶ国が、移動性動物種によってもたらされる様々な資源の恩恵が持続するように協力しています。